

## 街と共生するサンパウロのレジデンス

スタジオ・アーサー・カサスが手掛けたサンパウロ屈指の高級住宅街に立つレジデンス。恵まれた周辺環境を存分に取り込んだ、都市部における豊かな住空間の在り方が提示されている。

Photo FRAN PARENTE

# TIMELESS TEXTURE

by STUDIO ARTHUR CASAS

### ニュートラルカラーでまとめた 快適なリビングエリア

リビングにいちばんのボリュームを割り当てた。ソファはアーサー・カサスがミカサのためにデザインした「フスカ」。手前は床と同じ素材のテラゾーで製作したカスタムコンソール。上に置かれたアートはブルガリアの彫刻家リウバ・ウォルフの作品。



「このエリアはサンパウロでは珍しいほどの環境に恵まれています。低層の建物に沿って街路樹が並ぶこの地区の特性が、プロジェクトの構想に直接的な影響を与えています。大きな開口部が外部とつながり、風、自然光、木々の眺めを最大限に取り込んでいます」

この建物で最も際立ったデザイン的な要素は、プロジェクトのために特別に設計した、通気性を確保するブロックだ。このブロックは自然換気と日射のコントロールを考慮すると共に、個性的なビジュアル言語を獲得している。建物のアプローチでは曲線を描くブロック壁がメインエントランスへと導き、都市から住宅への移行を象徴する建築的ジェス

恵まれた地域特性を  
プランの細部にまで反映

ブラジル経済を牽引する最大の都市サンパウロ。その南部、モエマ地区のヴィラ・ノヴァ・コンセイサオンは、屈指の高級住宅街として知られている。その一角に立つスタジオ・アーサー・カサスが手掛けた「セッチ・アパートメント」(セッチはポルトガル語で7の意)は、ワンフロアに1戸、総戸数7戸というレジデンスだ。「空間の一体化」をテーマに設計され、建物の内部にはコボゴ(通気性のあるブロック壁)越しに柔らかな自然光が差し込む。

チャイとして成立している。さらには、この要素が共用部から各住戸の内部へと連続し、建物のアイデンティティがより強められている。このレジデンスは控えめながらも、周囲とのつながりを重んじているのだ。

1950年代のヴィンテージのドアハンドルを引いて歩を進めると、キッチン、ダイニング、リビング、ホームシアターが緩やかにゾーニングされ一体化した住空間が目に見え込んでくる。友人を招く流動的な生活スタイルを重視したオーナー夫妻の希望が、全てかなえられていることは一目瞭然だ。カサスは続ける。

「インテリアの出発点は、建物同様にコンクリートスラブです。次にテラゾーが床を覆い、廊下の腰壁に立ち上がり、リビングのコンソールのような造作家具にも現れます。仕上げは温かみと触感をもたらすヨーロピアンオークのパネルです」

カサスはこの空間を、グレー、ベージュ、白、木のブラウンといったニュートラルなカラーパレットで仕立てた。豊かな光によって素材の質感が引き立ち、アートや家具の存在を際立たせる意図的な選択だ。

「私はここに住む人が流動性と連続性を感じてくれることを願っています。住居は境界ではなくフィルターとして機能し、空間は家族を包み込みながら、外部にも開いていることが理想なのです」

建築家の一貫した理念に基づいた内外に連なる設計は、真の豊かさを得るための示唆に富んでいる。

家具的な仕上げを尊重した  
端正なキッチンエリア

ミニマリズムと機能性のバランスを追求したキッチンの一角。右奥の建具の中には調理家電一式がビルトインされている。片持ち構造の金属製テーブルトップを囲むのは、スウェーデンの家具ブランド、ジョナサンデザインの「ジュビタースツール」。



多彩な家具の個性が  
ワントーンの世界観を彩る

リビングからダイニング方向への眺め。ソファはカサスがデザインした「エラ」。左手のティートロリーはホルヘ・ザルスビンの「JZ」。黒いスタンドライトはグビの「グラスホッパー」。円形のコーヒーテーブルはエランサ・クルトゥラウの「アディ」。

住まいは隠れ家ではなく、環境の一部であるべきなのです



コージーなダイニングで  
モダンアートと食事を堪能

ブラジルのアーティスト、アナ・マリア・タヴァレスのミラーのアートワークが壁に掛かるダイニング。エテルのテーブル「リノ」とサイドボード「オンダ」。共にカサスがデザインしたアイテム。アームチェアはジョルジ・ザルススピンの「シニアメタル」。

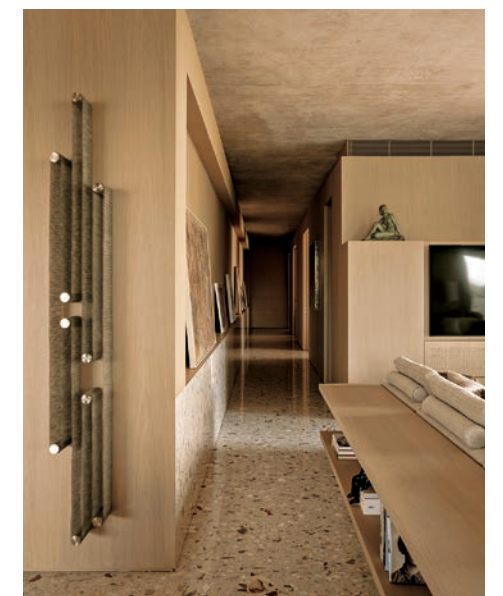


南米ならではの植生が  
ゲストを歓待する

上 リビング＆ダイニングの大開口から建物の周囲を望む。南米特有の濃密で豊かな植生が目を楽しませてくれる。窓の左端に見えるのが、このプロジェクトのために製作された、通気性を確保し光の透過性をコントロールするブロック壁「コボゴ」。

寝室につながる廊下は  
アートを楽しむギャラリー空間

右 3つの寝室へとつながる廊下の片側には腰壁の位置までテラゾーが張り込まれている。その上には浅いニッチが設けられ、施主がコレクションしたレオン・フェラーリやダニエル・セニスといった南米で活躍するアーティストの作品が並んでいる。





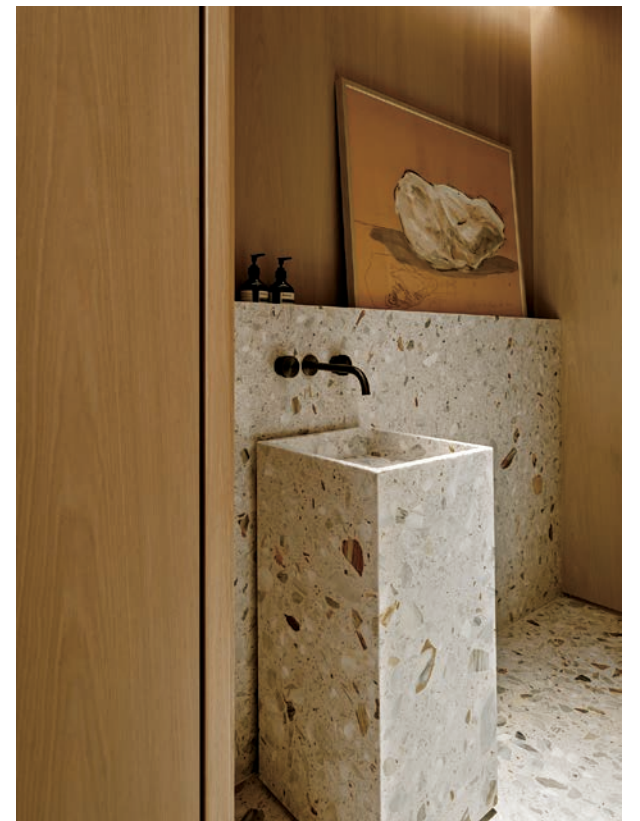


#### 洗面台にもテラゾーの表情を徹底してリフレイン

右 床から立ち上がるスクエアな洗面器に張られたテラゾーが、存在感を放つ洗面スペース。もちろんシンクの中も同じ仕上げが施されている。このプロジェクトでは、イタリアを拠点とするテラゾーメーカー、サンタマルゲリータ社の製品が採用された。

#### ミニマルな表情を湛えるシンメトリーな快適空間

下 照明、建具、水栓金具に至るまでシンメトリーにプランされたバスルーム。ミラーや建具の上端は天井とフラットに連なるよう、緻密に納められている。バスタブはミネラル社の「ヴァルヴェ」、カサスのデザイン。洗面台の面材はヨーロッパアンオーク。



#### 環境に対して開かれたレジデンスの理想形

上 建物の外から見た室内の様子。柱の位置、照明計画などと共に緩やかに全てがつながるゾーニングの関係性がよくわかる。中央の廊下の奥が寝室などのプライベートエリア。右端に見えるのがブロック壁「コボゴ」。他の階にも連続して使用されている。

#### サンパウロの夜の街並みと間接照明が響き合う

左 夜のサンパウロの街並みを望む、リビングの奥に位置する一角。中央のチェアはスイスのデザイナー、ウィリー・グールの「ループチェア」。大開口のガラスに反射するさまざまな映り込みと共に、テラゾーの床が昼間とは異なる艶やかな表情を見せる。

